

2021年（令和3年） 段ボールの需要予測

全国段ボール工業組合連合会

2021年（暦年）段ボール需要予測 14,300百万㎡ 前年比101.4%

2020年の国内経済は、新型コロナウイルス感染拡大の影響により4～6月の実質GDP成長率は前期比年率で▲28.8%と記録的な落ち込みとなり、7～9月の速報値で+21.4%と回復したものの感染拡大前の水準とは依然大きな差がある。民間調査機関の多くは2020年度の実質GDPが5%台半ばのマイナス成長になると予測している。

2020年の段ボール需要は前年を下回る状況が続き、1-10月累計で前年比96.8%、1-12月累計見込みでは14,100百万㎡（前年比96.6%）程度となり、2019年12月に当連合会が発表した予測前年比100.7%を大幅に下回る見込みである。

2021年度の国内経済は、2020年の急激な落ち込みの反動はあるものの回復ペースは緩やかなものに留まるとみられており、民間調査機関による実質GDP成長率予測は概ね+3%強となっている。

このような段ボール需要動向、経済見通しを考慮して2021年（暦年）の段ボール需要を14,300百万㎡（前年比101.4%）と予測した。期間別内訳は、前年の4-9月の落ち込みの反動と回復基調を見込んで、1-3月99.0%、4-9月102.5%、10-12月101.5%と予測した。

主な需要部門別動向としては、「加工食品用」（構成比41%）は、底堅い内食需要に加え、業務用においても後半から緩やかな回復を見込み2%程度の伸びと予測。

「その他」（構成比17%）は、高齢者向けの衛生用品の拡大に加え、家庭紙関連も需要が一巡するものの堅調に推移し1%程度の伸びと予測。

「青果物用」（構成比10%）は、作付面積の減少等マイナス要因はあるものの、前年の長雨による日照不足、猛暑干ばつによる需要減からの回復を見込み1%程度の伸びと予測。

「電気器具・機械器具用」（構成比7%）については、自動車向けを中心に徐々に

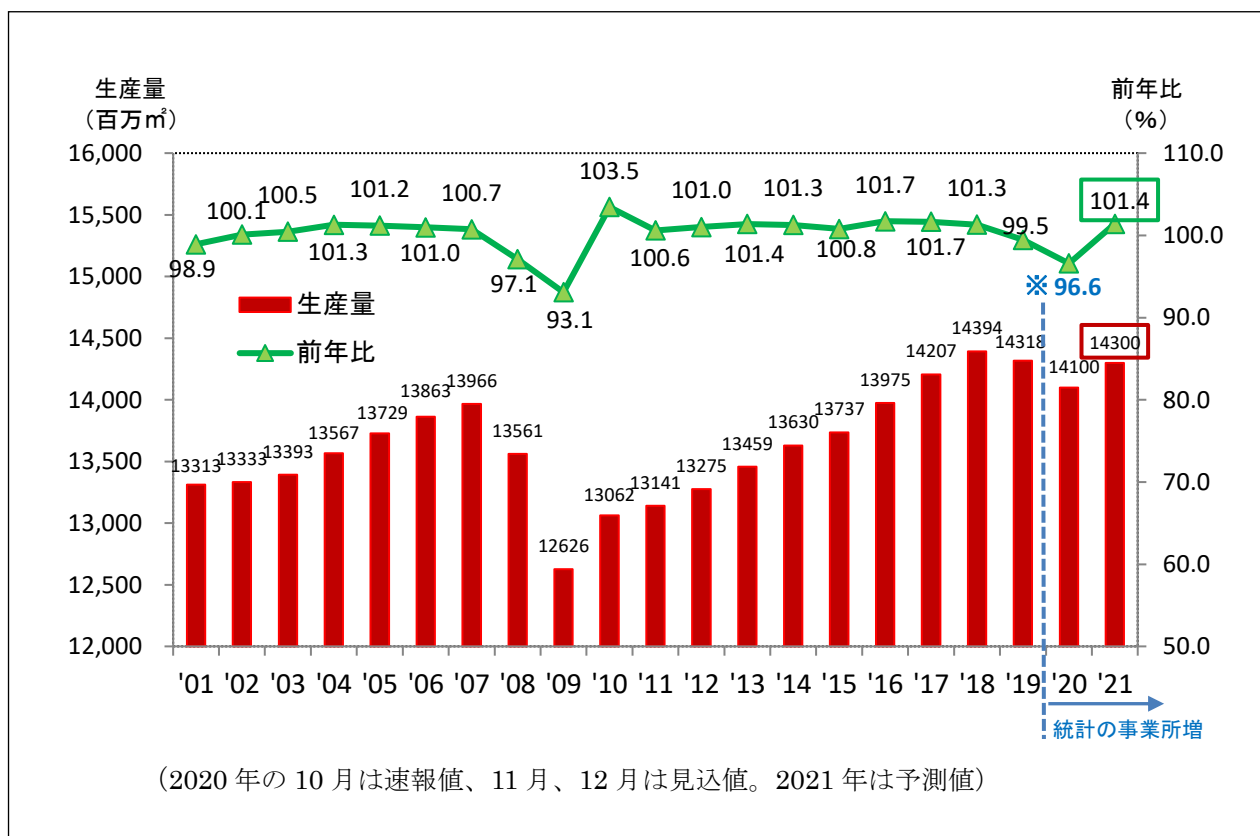
回復傾向となることを見込み 2%程度の伸びと予測。

「薬品・洗剤・化粧品用」（構成比 6%）は、新しい生活様式の定着により薬品、洗剤需要は見込める一方、化粧品はインバウンド需要の回復が期待できないことから前年並みと予測。

「通販・宅配・引越用」（構成比 5%）は、コロナ後においてもリアル店舗での購買減少は続き E コマース市場の成長が続く一方で、脱段ボール化の動きもあり 2%程度の伸びに留まると予測。

以上

段ボール生産量推移



※ 2020年1月より統計に新たな事業所が追加（約1.9%、276百万m²/年相当）されたため、前年比については2020年のみ調整している。追加分は2019年以前の生産量には含まれていない。